三春中学校だより

第 10 号

発行日 令和 元 年 6 月 4 日
発行所 三春町立三春中学校

電 話 0247-62-2181 ＦＡＸ 0247-62-6978
E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【思い出に残るすばらしい大会でした！　～成長の喜び、勝つことの誇り～】

５月２９日（水）・３０日（木）の両日、田村地区内の各会場において田村支部中体連総合大会が実施されました。１年生のみで優勝した柔道部、チームの総合力で圧倒的試合結果で優勝したソフトボール部をはじめ、各部活動は、これまでの積み重ねを糧として競技・試合に取り組み、今発揮できる力を存分に発揮していました。

部活動を構成するメンバーはチームとして大会に臨み、それぞれの役割を果たしつつ競技に参加してまいります。その部活動に入っている部員の中で、ユニフォームをもらった生徒は学校の代表選手として大会に臨みます。ユニフォームを着用する選手は、『三春中学校』というユニフォームを着用することになりますので、その選手の競技力だけではなく、三春中学校での『忠恕』『探究』『必達』のもとでの学びを心に、練習においても普段の生活においても、『共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに』活動・生活しようとしている生徒に与えられます。また、ユニフォームを着用しない生徒は、選手たちが学校代表としてスムーズに試合に臨めるよう、裏方としてチームに貢献することで、チームの大切な一員として活躍することになります。また、試合を見る力や他のために働くということについて学びます。朝早くからの大会参加はたいへんでしたが、それぞれの役割を担って、それぞれの学びをちゃんとして大会に参加してまいりました。

保護者のみなさんには、これまでの応援や送迎等、本当にお世話になりました。学校では、これまでの部活動における学びを大切にしながら、生徒一人ひとりに目標をしっかりもたせ、今後の生活を送らせようと、次なる指導の方向性を共通理解をしたところです。県中大会は田村支部代表という責任もあり、新たな学校生活へ切替えする生徒は早期に軌道に乗れるよう働きかけてまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

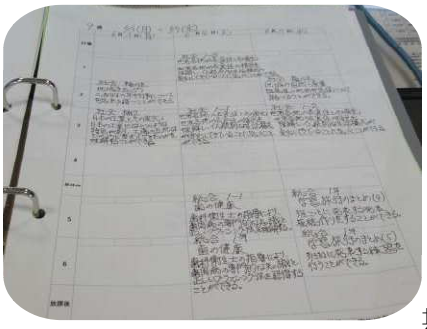
【教育実習生３週間先生になる勉強！　～本校卒業生から本物の先生をだそう。～】

この度４月１７日付をもち文科大臣より中央教育審議会に、『新しい時代の初等中等教育の在り方について』という諮問が為されました。諮問理由の一節、『…誰一人置き去りにしない教育を実現するため、…児童生徒への支援体制を整えることが求められ』ている。また、『我が国の質の高い学校教育は、高い意欲や能力を持った教師の努力により支えられいている一方、…我が国の教師は、平均すると…中学校では月約８１時間の時間外勤務をしている…教師の時間外勤務の実態は深刻で、…教師の採用選考試験の競争率の減少も…小学校では平成１２年度には１２．５倍だった倍率が平成２９年度には３．５倍となって…学校における働き方改革を進め教職の魅力を高めることの必要性は待ったなしの状況』との記述があります。そんな中、５月２７日（月）から３週間、本校に教育実習生が入りました。旧三春中学校出身で大学４年生。生徒の心に寄り添うことのできる教員をめざし、先生になるための勉強をしています。早速５月２０日（月）の初日から、『学校教育全般・実習の心構え』、『服務・勤務』、『道徳教育』と講話の連続。田村支部中体連総合・県中水泳激励会・全校集会では、全校生を前に教育実習のあいさつをしました。中学生という年代は、子どもから大人へと向かう中、自立したい、でも、不安という難しい時期でもあります。そんな子どもたちと共に生きることのすばらしさについて共有していきたいという思いをもっている実習生です。田村地区出身の先生が一人でも多くでるよう願います。

【これぞ本物の責任感！　～中体連の２日間、旗が揺らめかない日はありませんでした。～】

田村支部中体連総合大会の２日間、学校の掲揚台には校旗がいつものとおり風にはためいていました。１日目は雨模様でした。生徒会執行部のみなさんは自分が中体連の中心選手であるにも関わらず校旗を手にし、校旗が濡れないかどうか心配してくれていましたが、「降ってきたら濡れないように下ろすので出発する選手のみんなを見送れるよう揚げてください。」ということで掲揚ポールに校旗を揚げてくれました。これまで全身全霊を傾け取り組んできた大会のことできっと頭がいっぱいになることもあったでしょうが、自らの取組は必ずやり遂げるという強い気持ちを感じました。「責任」とか「習慣」ということについて改めて考えさせられた機会となりました。生徒会のみなさん、いつもありがとう。

【１時間１時間の授業を大切に！　～何が『わかった』、何が『できた』を明確に。～】



先生方は毎週、『週案』なるものを提出しています。前週の週末、次の週１週間分の授業の計画を作成し、計画的な指導を心がけています。６月第１週は第１学年の先生方の番。一定様式以外はそれぞれの先生方の工夫があり、見た目にもわかりやすい計画案、子どもたちが理解しやすい授業づくりを常に心がけています。
左に示した週案はその中の一つ。１時間１時間の枠にその時間の題材と共にその授業で身につけさせたい内容、生徒にできるようにさせたいことが明確に記述されています。こういう計画案があれば、ねらいに違わない授業が展開でき、先生自身が授業を振り返るときも明確な視点をもって反省し、次につながる振り返りができます。支部陸上、支部総合と、何かと運動面が話題となる時期ではありますが、三春中の先生方は、“これまで”に終始することなくよりよい授業の実施にむけ日々の努力を怠りません。

【花を咲かせ実を結びます！　～ピンクの花の傍らには、タンポポの綿毛やサクランボが。～】

花の季節は次第に過ぎ、校庭のタンポポは果実を綿毛で飛ばそうと、校門の後ろにある桜は堅いサクランボの実をつけています。春の季節を彩った花々を眺めて私たちは“美しい”“可憐だ”などと花々を形容しますが植物にとって花や果実は種の存続のため大切な役割を担っています。必死になって花を咲かせ、果実を実らせ、命をつなごうとしています。その“必死さ”が私たちの心に響くのかもしれません。『命の輝き』～共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに～。「おまえも必死にがんばれよ。」と植物たちに励まされているのかもしれません。そんなことを考えていたら、子どもたちが登校してきました。今日も１日が始まります。「おはようございます。」、「お疲れさまでした。」